

2019年度 社会福祉法人慈照会事業計画

通所介護事業

認知症対応型通所介護事業

短期入所生活介護事業

介護老人福祉施設事業

訪問介護事業

居宅介護支援事業

ケアハウス事業

2019年度社会福祉法人慈照会事業計画

1. 基本方針

わが国経済は、企業収益や雇用、所得環境の改善からの個人消費の増加を背景として、景気は緩やかな回復基調を維持してきたが、米中貿易摩擦、深刻化する人手不足の影響等、景気後退が懸念されている。新元号、働き方改革関連法、消費税率引き上げそれに伴う介護報酬改定（+0.39%）、『新しい経済政策パッケージ』の更なる処遇改善（新加算）への対応が必要となる。

団塊の世代が後期高齢者となる2025年問題、団塊ジュニア世代が高齢者となる2040年問題（人口11,000万人、高齢化率35.3%）に想定される社会を見据え、日本の人口・世帯構成・就業者数の推移と見通し、介護人材の不足数・充足率等を踏まえて今後の未来を考えなければならない。

介護人材の確保・定着は事業存続のための最重要課題となっている。学生や求職者の視点に立ち、福祉の仕事の魅力を積極的に発信するとともに、働きやすく魅力ある職場に向けて継続的に取り組む。職員の業務負担軽減のための福祉用具・機器、介護ロボット等のテクノロジーの導入、修繕及び備品の更新を計画的に進める。常に職員、利用者の両方にとってより良いサービスの提供を考え、追及したい。

昨年度より開始した公益的な取り組み（羊の飼育を通じた地域の憩いの場の提供、サロン支援）を継続し、「地域共生社会」の実現についても、中核的な役割を果たしていきたい。

今後は、事業環境の変化に対応できるスピード感と柔軟性が需要であり、従来のやり方・方法では現状を改善できない中、新しい取り組みに積極的に挑戦する組織への変革を進めたい。以下を重点目標とする。

※重点目標

（1）働きやすい職場づくりと人材の確保・定着

『新しい経済政策パッケージ』の更なる処遇改善、介護人材との新たな接点づくり、施設見学の充実、採用媒体の工夫、土日祝日手当の拡充、働きやすい職場対策（コミュニケーション促進、時間管理の徹底、有給休暇取得促進、記録データ活用、福祉用具・介護ロボットの活用）の実施、ホームページによる情報発信

（2）職員教育体制の充実とキャリアアップの推進

未経験者を育成する仕組みづくり、キャリアアップに合わせた施設内研修の実施、記録データの育成活用、福祉用具・機器の積極的な学び、認知症研修会等施設外研修への参加、資格取得促進

（3）地域交流と貢献

地域の公益的な取り組みの推進（サロン支援、羊の飼育、地域会議参加等）、三方よし主催初任者研修への協力（会場提供及び講師派遣）、滋賀県老人福祉施設協議会副会長施設・東近江介護サービス事業者協議会会長・滋賀県介護サービス事業者協議会連合会役員としての活動、地域密着型介護事業運営推進会議の実施、地域行事への参加と実施

2. 事業別重点目標

【通常規模型通所介護事業】（定員：30名）

70,000,000円を収入目標とする

重点目標：事故・苦情防止、自立支援を進め、安心安全なサービス提供を行う

ヒヤリハットの活用、事故苦情防止対策の徹底、機能訓練による自立支援により、安心安全なサービス提供を行う。

【認知症対応型通所介護】（定員：12名）

7,300,000円を収入目標とする

重点目標：認知症ケアの向上により利用者数増加を目指す

定期的なアセスメント・勉強会の実施、認知症基礎研修、実践者研修等に参加し認知症ケアの向上を利用増に結びつける。

【短期入所生活介護事業】（定員：16名）

82,000,000円を収入目標とする

重点目標：福祉用具・介護ロボットの活用による職員の業務負担軽減とサービスの向上

福祉用具・機器（スライディングボード、移乗用リフト、眠りSCAN等）、介護ロボットを活用し、利用者にも職員にも負担の少ない介護を目指します。

【介護老人福祉施設事業】（定員：54名）

197,000,000円を収入目標とする

重点目標：福祉用具の活用、職員間のコミュニケーションを促進する

積極的に福祉用具を活用し、入居者への負担軽減、安全確保を図る。また、職員間のコミュニケーションを促進し、業務の効率化と共に働きやすい職場づくりにつなげる。

【訪問介護事業】

30,000,000円を収入目標とする

重点目標：職員間の連携により、安心安全なサービス、自立支援に努める

職員間の連携により、ご利用者が安心かつ安全に生活でき、その人らしい生活ができるよう自立支援に向けたサービスを行う。

【居宅介護支援事業】

11,000,000円を収入目標とする

重点目標：地域の暮らしと人生の最終段階まで自立した生活ができるための支援

地域での生活から看取り期までの各生活ステージに応じて、状況に合わせた対応、連携を強化していく。

【ケアハウス事業】（定員：15名）

満床維持と待機者を確保する

重点目標：楽しみのある生活を入居者ととともに追求し、宣伝活動等により待機者を確保する

サークル活動や趣味活動、行事を通して楽しみを持ってもらうことにより生活満足度を上げる。入居者個々が安心して暮らせるように、プライバシーが守られた環境の整備を行う。ホームページ等でケアハウスの行事等生活状況を随時発信し、宣伝活動を進める。職員のスキルアップの為、認知症の理解と予防に努める。

3. 年間行事予定等

上半期		下半期	
4月	職員全体会議	10月	入居者健康診断 職員健康診断・ストレスチェック 第2回総合避難訓練（消防署立会）
5月	第1回総合避難訓練	11月	第2回理事会（監査報告、補正予算） 第2回夜間想定避難訓練
6月	第1回理事会（事業報告・決算） 第1回評議員会（理事選任、事業報告・決算） 第1回夜間想定避難訓練	12月	法人忘年会
7月		1月	年賀式
8月	カルナ納涼夏祭り 夏祭りお疲れ様会	2月	
9月	カルナハウス敬老式典	3月	夜勤者健康診断 第3回理事会（事業計画・予算）

※施設内会議

経営会議（月1回） スタッフ会議（週1回） 給食会議（月1回）

デイ会議（月1回） ショート会議（月1回） 特養会議（月1回） ヘルパー会議（月1回）

居宅介護支援事業所会議（月1回） ケアハウス会議（月1回） 事務会議（月1回）

※委員会活動等

研修教育体制プロジェクトチーム、事故・苦情防止委員会、環境整備委員会